

サタデー コラム

中国の経済成長は目覚ましく、2010年に世界2位の経済大国に躍進し、その後11年間で国内総生産（GDP）は日本の3倍規模にまで膨れ上がり、米中が世界の主導権を競う時代になりました。

わが国は戦後、米国との友好関係を築き上げてきました。中国とは、国交が正常化され、日中平和友好条約締結後は、経済面でのパイプは太くなりました。一方、中国に対するアレルギー反応も増大しました。米中対立の下で、わが国は米国との緊密性を図り、中国とは対立する形となっています。

経済的に日中間はお互いがないてはならない存在です。対立するのではなく、協調せねばなりません。

小職は45年前から中国へ赴

秋田屋本店社長 中村源次郎氏



なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士（医学）。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。県薬事審議会委員。県収用委員会委員。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会会長。県フエンスンギ協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

養蜂業で築く日中友好関係

き、商いと交流を頻繁に続けてきました。多くのビジネスパートナー、友人に恵まれ、蜂産品を主に貿易の拡大、技術開発の促進にまい進することができました。

「井戸を掘った人を忘れない」とかつて周恩来首相が日中国交正常化の際言われましたが、中国の養蜂にとって日本は「井戸を掘る」役割を果たしました。

弊社は昭和初期から西洋ミツバチを中国に輸出しました。西洋ミツバチは、生産性が高く、中国でも瞬く間に全土へ広がりました。

改革開放後、中国では大学の使命も明確化され、重要学部は

特定の大学に配備されており、西洋ミツバチの研究は、福建省の福建農林大学で集中して行われています。弊社は検査機器を提供するなど交流を図ってきました。中国からは井戸を掘った、すなわち、西洋ミツバチによる礎を築いた会社として歓迎され、親交を深めています。

「白い猫も黒い猫もネズミを捕る猫は良い猫だ」と鄧小平副主席が改革開放経済への転換の際に言われました。昨今、中国品は粗悪だと敬遠されがちな風評が広がっています。拝金主義が横行して蜂蜜も疑問視され、チャイナフリーなる言葉も日常的になっています。しかし「蜂

蜜」は、わが国の需要の95%を輸入に依存しており、そのうち75%が中国産です。今や、中国産なしでは市場が成り立ちません。

他業種からの参入などで、鄧小平氏の言葉通りに、黒い猫も流通し利益を稼ぎますが、白い猫も存在します。われわれは白い猫（蜂蜜）だけを輸入せねばなりません。そのためには弊社の100年前からの西洋ミツバチ輸出に始まる歴史と実績が礎となります。長年の中国の養蜂業者との絆・信頼関係が白い猫の輸入の決め手となります。

今年8日から岐阜市歴史博物館で、唐から苦難の末に渡日し、仏教や大陸文化を伝えた鑑真和尚と美濃の僧、栄叡の特別展が開催されます。先人の偉業を範として、養蜂を通して日中友好に一層励む所存です。